

評価結果から ー分析と目標ー

A=よく当てはまる B=やや当てはまる C=あまり当てはまらない D=まったく当てはまらない

A+B=当てはまる C+D=当てはまらない

①学校運営・特色づくり

生徒	1	宣真高校には、他の学校にはない特色がある。	c	22%
保護者	2	宣真高校は、教育理念・方針をわかりやすく伝えている。	A+B	80%
教職員	9	生徒が、各コースに設定された授業・行事に満足しているかどうかを調べて、反映させるよう努力している。	A+B	68%

評価結果と分析

I 分析

生徒の肯定的評価A+Bの71%を満足すべき割合とすることもできるが、C「あまり当てはまらない」が22%というのは、直接講座やコース行事を享受している生徒側の数値としては意外であった。保護者の方の、本校の理念と方針へのご理解の割合はありがたく、今後も発信していきたい。教職員の肯定的評価の68%は低目と言わざるをえない。

II 重点目標

本校の、自立できる女性像の育成という観点からの、コース別のカリキュラム、コース別の行事、コースごとの進路という、比重の意図と実際に挙がっている成果について、もっと機会を増やして在校生諸君に伝える必要を感じる。対外的には十分広報している内容が、校内的にはあまり知られていないとすれば残念至極なので、本校で頑張るためのモチベーションにつなげるための工夫を考えたい。またコース担当の教職員たちにはマンネリズムに陥る愚を自覚させ、教授法や方向性や教材の最適化を目指して、単元ごとの微調整を肝に銘じるよう改めて周知したい。

②教育相談

保護者	3	宣真高校は、家庭への連絡や意志疎通をしっかりとおこなっている。	A+B	79%
-----	---	---------------------------------	-----	-----

評価結果と分析

I 分析

近年不登校生や長期欠席者の増加につれて、家庭との連絡の重要度がいっそう高まっている。情報の交流は不可欠であり、79%はある程度高い評価と思われる。

II 重点目標

生徒のさまざまな学校生活での事象について、家庭連絡で伝える際の正確さ、整然さ、主観と客観の区別等について、教職員側が心して話さないと予想外の齟齬や誤解につながる例がある。慢心せず常に誠実な姿勢で家庭と向き合い、生徒の現況、将来について、過不足なく適切に情報を送るよう心がけないといけない。

### ③学校生活

生徒	2	生徒同士や、先生と生徒の仲はよいほうである。	A+B	67%
	3	悩みごとの相談について、先生の相談しやすい雰囲気がある。	A+B	45%
	4	先生は、生徒のプライバシーを守ってくれる。	A+B	60%
保護者	4	宣真高校では、子どものプライバシーはよく守られている。	A+B	89%
	5	子どもは、心身の悩みについて気軽に先生に相談できる。	A+B	60%

#### 評価結果と分析

##### I 分析

生徒設問2、4及び保護者設問4の結果から、過半数の生徒が良好で安定した友人関係を構築し、教員とも良い間柄を保っており、生徒のプライバシーに関することが守られていると感じている様子である。また、学校での人間関係を保護者が適切に把握していることが見て取れる。

しかし一方では、生徒設問3、保護者設問5の結果から、教員が相談の対象としてとらえられておらず、相談し辛い雰囲気であることが分かる。また、生徒自身が教職員に対し、サインを送りにくい環境となっている現状も見受けられる。生徒の心身の健全な状態を維持するべく、教職員側がいつでも対応する態勢を作っていることが、生徒・保護者に十分に認識・伝達されていないところがあるように思われる。今後、一層の努力を継続しなければならない点でもある。

##### II 重点目標

大半の生徒が良好な人間関係を築いているとはいえ、100%には程遠い状況である。人権教育を中心とし、生徒同士、生徒教員間の関係を良好なものとするため、教員の側に生徒のサインを見逃さず声をかける必要がある。特に、相談しやすい雰囲気や環境を作るためにも、懇談のみならず平日頃より生徒の意見に耳を傾け、一層の生徒理解に努める必要がある。特に「子どもが教員に悩みを相談しづらい状況である」という分析結果が出たことを重く受け止め、教員一人一人がカウンセリングマインドを自覚し、日頃の指導に取り組む必要性を感じさせる。

### ④学力指導

教職員	4	特に理解の進んでいる生徒にも不満がないような授業展開を講じてい	A+B	74%
	5	長期休暇中の教科・科目の課題は必ず設定している。	C+D	53%
	6	チャイムと同時に入室、生徒の授業態勢の確立、授業中の適切な注意指導等に意を砕いている。	A+B	74%

#### 評価結果と分析

##### I 分析

設問4、6の自己評価74%は満足な割合とは言えない。まだ踏み込めていない自覚が表れている。また設問5「長期休暇中」の必須課題の設定については、教科により回答にばらつきがある上での平均値となっている。

##### II 重点目標

設問4の回答からは、習熟度が遅れがちな生徒と、理解の早い生徒とをどう同じ時間内に満足させるか、という普遍的な授業運営の課題が含まれる。現実問題として、理解できていない生徒たちへのアプローチに偏りがちな傾向があり、理解の進んでいる生徒に対しては教授側に忸怩たる思いがある。どんどん先へ進みたい生徒へも対応できるような「先取りプリント」を配布するほか、習熟度別に授業クラスを分けて、ほぼ理解度の同じ生徒たちを集めた状態での授業スタイルも検討してはどうかと思われる。設問5については、講義スタイルの教科と実技スタイルの教科とでは、長期休暇の課題設定の有無に差がある。実施していない教科にやもみくもに宿題を出させるのではなく、考える時間がゆったりとある期間にこそ有意義な課題宿題について、適当な出題があるかどうかを考えてもらうようにしたい。設問6について、始業チャイムと同時の教員の入室は改善されつつあると思われるが、まだ十分とは言いがたい。急なやむをえない時間割変更、休み時間中の保護者との電話連絡の延伸など、想定していない事態への対応により、時折授業に遅れて入室する場合がある。しかし毎回同じ教員が遅れて入室するようなことがあってはならない。授業時間を厳守確保することは学校教育の支柱の一つでもあるので、引き続き教員には、早めの職員室出発、チャイム入室を守るように指示していく。また授業中の私語の注意指導についても、何度注意しても改善の見られない生徒がいた場合、学年で厳重に指導するなど、授業担当者と学年との連絡密度を上げていく。

#### ④学力指導

生徒	5	コースやエリア独自の授業や行事は、自分の興味・進路に役立つと思う。	A+B	73%
	6	各科目の先生の授業は、それぞれよく理解できる。	A+B	52%
	7	わかりにくいところを質問したときや、欠点をとってしまったときなど、先生は丁寧に教えてくれる。	A+B	64%
保護者	6	授業は積極的に取り組めて楽しいようである。	A+B	70%
	7	成績不振の生徒への学習指導がよく行われている。	A+B	73%
	8	コースやエリア独自に設定されている授業や行事は有意義である。	A+B	82%

#### 評価結果と分析

##### I 分析

「コースやエリア独自に設定されている授業や行事」に対しての生徒、保護者からの理解、評価が昨年度に比べて、下がっていることが気掛かりである。生徒で約10ポイント、保護者で約7ポイント減となってしまった。コースやエリアへの満足度が減少しているのは学校の魅力に関わる問題で看過できないところである。原因究明が急がれる事態となった。成績不良者に対する放課後勉強会を始め、各授業担当者が授業外で指導を行うなど、学習面でのサポートを実施しているが、生徒や保護者には十分な理解、評価が得られていないのは非常に遺憾である。「各科目の先生の授業は、それぞれよく理解できる。」という問いについては昨年度から更に約3ポイント下がるという非常事態に陥ってしまった。約半数の生徒が授業がよく分からないという状況は危機的状況であり、対策が急務である。

##### II 重点目標

授業がよく分からないという危機的状況を脱するには、学校全体レベルでの学び直しの必要性を痛感する。個々の教科や授業での学び直しでは不十分であり、3年間を通したカリキュラムの作成が望まれる。但し、その前提として生徒の入学時の学力を測定し、把握しておくことが必要である。より正確に学力測定ができる試験の導入を検討したい。更に学年単位での学び直しを導入するには、マンパワーで対応するには限界があり、タブレット等の導入が不可欠である。ICT環境の整備が喫緊の要務である。

#### ⑤不登校生対応

教職員	15	カウンセリング室生は、各種の学校行事・コース行事にどんな形であれ参加できるようになっている。	A+B	85%
	16	カウンセリング室生にとって、過ごしやすく、かつクラス復帰をうながす環境設定がととのっている。	A+B	72%
	17	カウンセリング室生の進路保障についても、十分に手を尽くしている。	A+B	89%
	18	カウンセリング室担当者、担任・教科担当者との連絡は密に行われている。	A+B	88%

#### 評価結果と分析

##### I 分析

カウンセリング室担当者の不断の努力により、カウンセリング室生が各種の学校行事・コース行事に参加できるようになってきている。メールによる連絡を始め、登校時の声掛けによりカウンセリング室生の参加に対する抵抗感を低減している。又、カウンセリング室生の進路保障については、高校生の減少という現状も相俟って、進学については合格を手にするケースが増えてきている。カウンセリング室担当者、担任・教科担当者との連絡についても、カウンセリング室担当者の積極的な働きかけにより密に行われている。各種の考査、提出物等のやり取りもスムーズに行えるようになってきている。ただ、クラス復帰を促す環境設定については学年・担任による不徹底が見られるので是正していきたい。

##### II 重点目標

進級・卒業のための出席日数の確保が問題になっている。長期休業中に登校をさせたりするも、それだけでは不十分なケースが増えてきているため、対策が必要不可欠である。通信制の高校等で採用されている、NHKの高校講座を利用しての家庭学習の扱いについて検討したい。カウンセリング室にも登校できない生徒に対して進級・卒業を保障していく制度の構築が急務である。

## ⑥進路指導

生徒	8	進路について、一人一人に適した丁寧な指導がされている。	A+B	63%
	9	進路について、説明会や見学・研修がよく設定されている。	A+B	71%
保護者	9	進路指導について、希望進路に関する最新の教育情報をよく伝えている。	A+B	71%
	10	進路指導について、ガイダンスや動機づけの機会がよく設定されている。	A+B	73%
教職員	11	進路についての面談や相談が十分におこなわれている。	A+B	66%
	10	生徒一人一人の希望・適性をすくい取るように、こまやかな進路調査をおこなっている。	A+B	89%
	11	生徒が必要としている進路情報について、積極的に複数回、提供している。	A+B	89%
	12	学年・コースで進路指導について、しっかりした年間計画が立てられている。	A+B	89%
	13	進学・就職に対して、生徒に各自の将来のビジョンが描けるようにガイダンスを工夫している。	A+B	86%
	14	進路について意欲に欠ける生徒に対して、根気強く働きかけている。	A+B	86%

### 評価結果と分析

#### I 分析

各学年においての進路指導と、各コースでの進路意識につなげていく取り組みは年々充実されているが、生徒たちや保護者の方々への実感が見られないのではないかと考える。進学情報誌や口コミなどの情報があふれる中、生徒の希望を聞き入れるだけでなく、本当にその生徒に合った進路選択が促すことができるよう、的確な情報を担任の先生、生徒・保護者の方に提供し、納得いく進路選択を心がけていかなければならないと考える。また、教員と生徒間だけではなく、同時に保護者にも指導の状況をお知らせし、保護者の方々にも納得していただける進路指導が必要と考える。

#### II 重点目標

各学年において、経過的な進路指導を心がけ、生徒への進路意識を向上させること、保護者の方への情報提供やや企画を取り入れ、保護者対象の進路説明会を積極的に開催したり、本来行っていた生徒対象の進学相談会に保護者の方々にも参加していただけるよう工夫をするなど、保護者の方々への情報を多く発信し、生徒の動きや教員との関わりを密にすること、また、各コース、エリアとの連携も今まで以上に深め、体験学習やキャリア教育、高大・高専連携授業を開講することにより、生徒が自ら将来設計が建てられるよう、きっかけ作りをしていきたい。

## ⑦生活指導

生徒	10	先生は授業中の私語や居眠りを厳しく注意している	A+B	55% (昨年度52.6%)
	11	生徒指導の方針についてはよく理解できる	A+B	51% (昨年度60.0%)
保護者	13	宣真高校の遅刻・携帯電話・頭髪などの生活指導面の方針に共感でき	A+B	76% (昨年度76.0%)
教職員	19	すべての教育活動を通じて、社会規範や公共心・道徳心を大切にす る意識が育まれている	A+B	93%
	20	情報モラル教育について、よく生徒に正しく適切な指導が行われて いる	A+B	86%
	21	いじめの早期発見について、生徒の変化や動向を特に意識している	A+B	86%
	23	薬物乱用、交通安全について健康と安全の観点から強く指導している	A+B	79%

### 評価結果と分析

#### I 分析

平成28年度と昨年度を比較してみた。

生徒への「先生は、授業中の私語や居眠りを厳しく注意している。」は微増ながらも約3ポイント増加した。しかし、「生徒指導の方針についてはよく理解できる」は9ポイントの減少がみられた。

保護者に問うた「宣真高校の生活指導面の方針に共感できるか否か」については昨年度とまったく同じである76%が共感できるとの回答が得られた。

教職員に問うた設問は今年度新設問であるため比較はできない。したがって今年度のみ分析となるが、もっとも共感および肯定的な意見であったのは「すべての教育活動を通じて、社会規範や公共心・道徳心を大切にす意識が育まれている」であり93%という非常に高い数値が示された。次に高かったのは「情報モラルの正しく適切な指導」が86%、「いじめの早期発見のための生徒への意識働きかけ」も同数の86%となっている。「薬物乱用防止、交通安全指導」では、「よくあてはまる」(A)が28%「ややあてはまる」(B)が52%となり生徒指導関係の設問のなかで共感、肯定的な意見が最も少数回答であった。

#### II 重点目標

小・中学校では近年、教育活動のなかにおいて最も重要視されるべき、力点の中心分野は「授業」とであるとされている。昭和後期から平成期にかけて、ゆとり教育・情操教育等が比較的重要視された時期もあった。しかし学校の存立意義、教育の原点に戻ると、「授業内容の大切さが」叫ばれた。これは高等学校においても同じで、「授業中の私語、居眠り」を注意し、叱る教師が増加していることもその現れのひとつであろう。一方、「生活指導方針」について、生徒の共感率は年々減少傾向にある。とくに昨年度比9ポイントの減少は真摯に受け止めるべきであるとする。人々の価値観は急変するものもあれば、年々多様化していくものもある。昨年度までの生徒指導方針が、今の生徒の生活様式や感覚に合致しているかどうかという視点は絶えず意識しておかねばなるまい。しかしこれは生徒意識に迎合することはあってはならない。高等学校に求められるのは何かを常に念頭におき、生徒指導にあたるべきである。

本校では、携帯・頭髪・遅刻・マナーのあり方について、他校より比較的厳しく指導を実践している。これが多様化している現代において、保護者にとって「安全・安心な学校」として信頼を得ていると思われる。本校の生徒指導について約8割の保護者が方針に共感しているという回答にその意識を感じとれる。ただし、同種の設問について前述のように生徒の共感率は5割であり、その意識の違いは30ポイントも開きがあることを知っておかねばならない。

生徒にとって「生活指導」とは甚だ煩いものである。彼らが憧れるもののひとつにTVのなかの学園ドラマ的な生活なのかもしれない。だが、「指導」と彼らの「都合」は異なるのである。いつの時代もわれわれ教育者は公共の福祉に反しない範囲で、生徒には現代社会を生き抜く力を教育すべきである。「定見なき弱腰」ではいけない。確固たる信念と執念をもって生徒指導にあたるべきである。

## ⑧心と人権

生徒	13 人権の大切さを学んだり、考えたりする機会がある。	A+B	57%
		D	12%
	14 先生たちは、生徒の人権を十分尊重している。	A+B	56%
		D	14%
保護者	14 宣真高校は、生徒の人権やいのちを大切にす心や、社会ルールを守る態度を育てようとしている。	A+B	80%
		D	3%
教職員	22 人権尊重についての課題や指導方法についてよく話し合われている。	A+B	75%
		D	4%

### 評価結果と分析

#### I 分析

本校では、各学年の人権担当教員が、年度当初に計画した重点目標に従い、生徒が理解しやすいように、生徒たちにとって身近な事柄を中心に、人権ホームルームを実施している。【生徒 設問13】では前年度に比べて、約10ポイント低下している。また、【生徒 設問14】についても約7ポイント低下している。現状では生徒の評価は決して高いとは言えない。一方、【保護者 設問14】では80%の高い評価をいただいております、【教職員 設問22】でも75%の評価がある。つまり、教職員は人権教育の重要性について一定の努力をしておられ、保護者にはそれが認知されていながら、生徒たちには伝わっていないという歯痒い現状を垣間見ることができる。そのため、人権ホームルームの機会を増やし、生徒たちにより一層、人権の大切さが伝わるように取り組む必要がある。

#### II 重点目標

生徒の人権意識を高めるために、各学期の人権ホームルームの内容を充実させていくと共にその機会を増やしていく。従来よりも生徒の実態に即した、関連性のある理解しやすい内容のホームルーム計画を立てて実施する。そして、人とのつながりの大切さ、相互の違いを認め合いながら尊重する意識を高めていきたい。同時に、教職員は内外の研修会に参加し、自らの人権意識を高めることによって、より有意義な人権教育が行われるように志向する。

## ⑨特別活動

生徒	15	クラブ活動は活発である。	A+B	81%
保護者	15	文化祭・体育祭などの学校行事に、子どもは積極的に参加している。	A+B	86%

### 評価結果と分析

#### I 分析

クラブ活動の活発さについては前年度と同じく、80%という高い評価をいただいている。クラブに入っていない生徒がクラブ活動の情報を知る機会は限定されてくるので、おそらく表彰状の伝達式や壮行会や報告会が盛んに行われていることが評価を高めているものと考えられる。また、学校行事に関する積極性についても前年度と同じく、80%以上の高い評価をいただいている。生徒たちは学校行事や部活動に対し、概ね積極的に参加していることがうかがえる。

#### II 重点目標

部活動をよりアピールするために、外部の大会に積極的に参加していくように志向する。また、ホームページやブログなどの媒体を有効に活用することで、クラブ活動で努力している生徒を顕彰していきたい。学校行事に関しては、創立100周年に向けて校内の環境が大きく変化していくことも踏まえて、現在の行事の充実度を増していくという方向性で進めていきたい。

### 保護者意見欄

体育祭の準備と片づけは運動部員だけではなく、クラスで役割分担を決めて行ってはどうか

学外行事（実習）では携帯電話の使用を許可してはどうか

校舎内のトイレに洋式を増やしてほしい

携帯電話について、没収後の返却は生徒にしていきたい

授業中に私語が目立つそうです。巡回などをして改善して頂きたい。

夏用の短いソックスがあると良い。